

肝炎ウイルス検査の新聞報道に関する研究

研究分担者 浅井 文和 国立国際医療研究センター 肝炎情報センター 客員研究員

研究要旨

【背景】肝炎検査の受検から受診、受療に至るステップの中で、まだ肝炎ウイルス検査を受けていない住民に検査を受検してもらうことが重要である。そのためには検査の必要性、意義を広く知ってもらう必要がある。一般の人々が情報源として接している新聞で肝炎検査についてどのような内容の記事が書かれているかを調査した。

【方法】肝炎検査・検診を扱った新聞記事を全国紙（朝日新聞）の記事データベースを使って抽出し、記述内容について計量テキスト分析をおこなった。

【結果】抽出できた新聞記事は2010年1月から2019年12月までに掲載された385件だった。記事数は2012年以降、減少傾向にあった。内容は(1)肝炎ウイルス検査(2)B型肝炎訴訟(3)予防接種(4)治療などの多様なクラスターから成っていた。

【結語】肝炎ウイルス検査を扱った新聞記事はこの10年間、多様な観点で掲載されていたが、記事数は減少傾向にある。B型肝炎訴訟が社会的な注目を集めた時期には多くの記事が掲載される傾向にあった。肝炎検査の意義を継続して広報していく必要がある。

A. 研究目的

検査受検から受診、受療に至るステップを前に進めるには、一般住民がウイルス性肝炎に関する適切な情報を入手・理解することが求められる。最初のステップになる肝炎ウイルス検査に関しては、検査の必要性を一般住民に理解してもらうことが必要である。各自治体は検査の周知・広報に努めているが、新聞・テレビ等のマスメディアの影響力も大きい。新聞で肝炎ウイルス検査についてどのような内容の記事が書かれているか、過去10年分を調査した。

B. 研究方法

発行部数が多い全国紙のひとつ、朝日新

聞の記事データベース(各都道府県の地域版記事を含む)を使って記事数と内容の分析をした。記事検索式は「肝炎 AND (検査 OR 検診)」とした。検索対象期間は2010年1月1日から2019年12月31日の10年間とした。抽出した記事・見出しを目視で読んで肝炎ウイルス検査を扱っていない記事を除外した。

計量テキスト分析をするためのソフトウェアとしてKH Coder ver.3 (参考文献: 樋口耕一 2014 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版)を用いた。記事テキストをKH Coderに読み込み、形態素分析システム「茶釜」で単語に切り分け、記事内容の特徴を計量的に分析した。品詞による語の選択では、名詞、サ変名詞を分析に用いた。

(倫理面への配慮)

本研究は人を対象とせず、個人情報を含まないテキスト分析であるため、倫理審査の対象にならなかった。

記事を KH Coder に読み込んで、全記事中で使われた語のうち出現回数が多い頻出語は「肝炎」「感染」「検査」などであった(表 2)。

C. 研究結果

抽出した新聞記事は 10 年間で 385 件であった。年別の記事件数を表 1, 図 1 に示す。

(表 1) 肝炎検査に関する新聞記事数

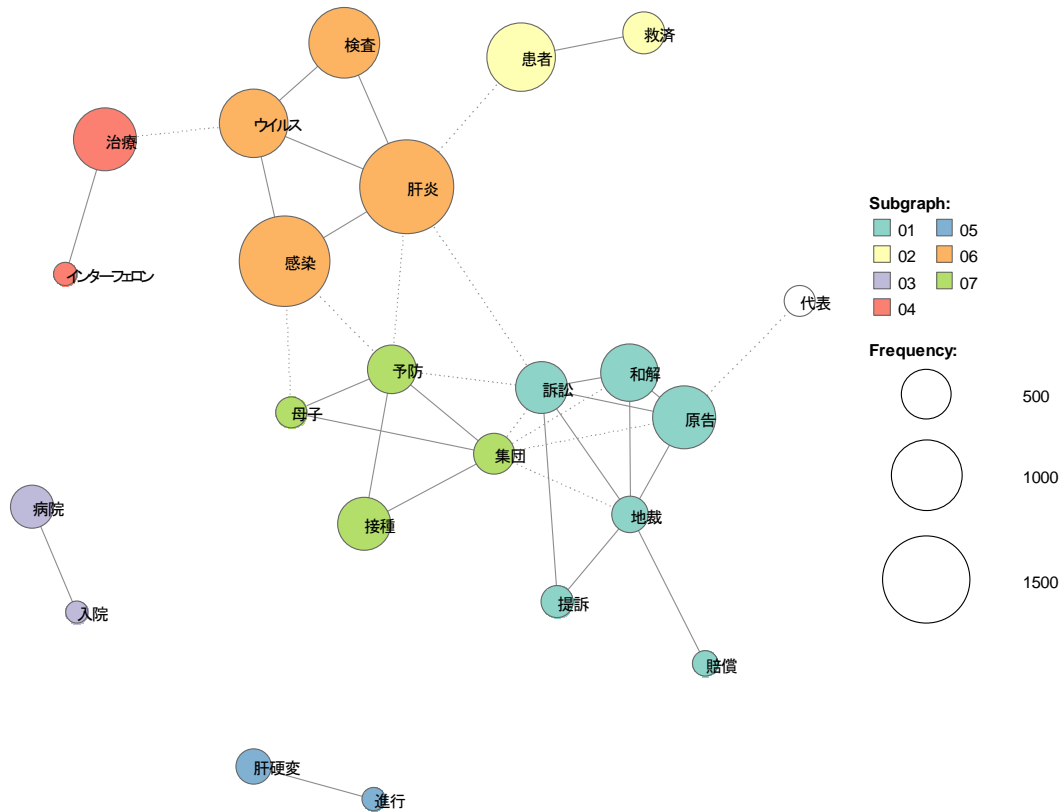
年	記事件数
2010	77
2011	81
2012	31
2013	36
2014	30
2015	31
2016	42
2017	22
2018	22
2019	13
合計	385

(表 2) 出現回数が多かった抽出語

順位	抽出語	回数
1	肝炎	1,762
2	感染	1,623
3	検査	982
4	患者	938
5	ウイルス	923
6	治療	781
7	原告	780
8	和解	652
9	接種	548
10	訴訟	528
11	予防	476
12	肝臓	439
13	医療	406
14	病院	363
15	救済	350

(図 1) 肝炎検査に関する記事数の推移

(図 2) 抽出語の共起ネットワーク



頻出語がどのような文脈で使われているかを調べるため、近くでよく使われる語と語とを線で結んだ共起ネットワークを作図した(図 2)。共起の強さを測る方法としてはコサイン係数を使用した。

共起ネットワークを見ると、

- (1) 肝炎ウイルス検査
- (2) B型肝炎訴訟
- (3) 予防接種
- (4) 治療

などのクラスターに記事内容を分類できることがわかる。

また、関連が強い語ほど近くに配置されるようにした自己組織化マップ(Self-Organizing Map)という手法を用いて作図した(図 3)。

このマップを見ると、

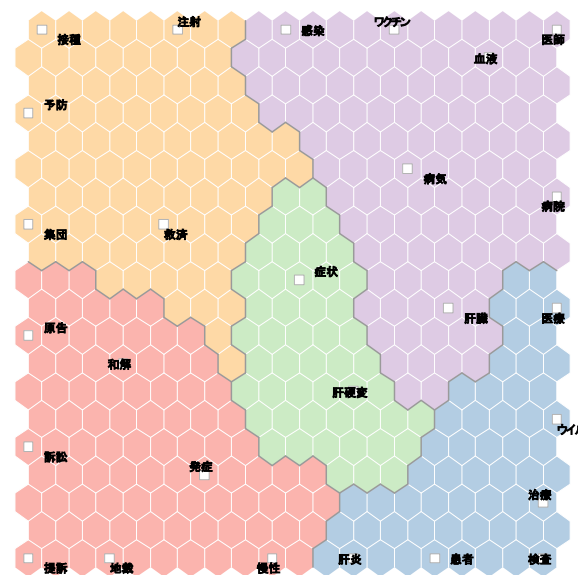
- (1) 肝炎ウイルス検査
- (2) B型肝炎訴訟
- (3) 予防接種と救済

(4) 病院・医師

(5) 肝硬変

というクラスターで記事全体をカバーできることがわかる。

(図 3) 抽出語の自己組織化マップ



D. 考察

肝炎ウイルス検査を扱った新聞記事を全体的に見ると、肝炎ウイルス検査、B型肝炎訴訟、治療などの要素を含む多様な内容になっていた。

ただ、記事の掲載件数はB型肝炎訴訟の報道が活発であった 2010 年～2011 年は年間 80 件前後と多かったものの、2012 年以降は年間 30 件前後になっている。B型肝炎訴訟への社会的な関心が高かったことを反映しているが、その後も一定数の報道はなされていると考えられる。

E. 結論

肝炎ウイルス検査を扱った新聞記事は多様な要素を含むものであった。記事件数は減ってきており、継続的な広報活動が求められる。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし